

### 全国高校バスケットボールのウインターカップ

第75回全国高校選手権は23日、東京体育館などで開幕し、初日は男女の1回戦計36試合が行われた。青森県勢は女子予選1回戦で敗れた。今夏のインターハイで強かった柴田は、徳山商工（山口）に89-59で快勝した。八学光星は相手の

素早いパス回しとアウトサイドからの攻撃に苦しみ、終盤の反撃も及ばなかった。柴田は第3クォーター（Q）から攻撃が活性化。圧倒的なパウンド力で最後まで試合を支配し、30点差で大勝した。

第2日の24日は男子1回戦の残り2女子2回戦計36試合が行われる。青森県勢は男子の八学光星が桐光学園（神奈川）、女子の柴田が鶴学園（石川）とそれぞれ対戦する。

（上村公徳）

# 光星女子 初戦敗退

▽女子1回戦  
 聖カタリナ  
 ナ（愛媛①） 88  
 19272616  
 27121312  
 64  
 八学光星  
 （青森②）

全国大会5年ぶりの勝利は逃がった。八学光星は今夏の四国王者の強い攻撃力の前に完敗。スピードと高さも互角だったものの、攻撃の質が20点以上の差となって表れた。副島紗和主将は「決死力に違いがあった」と涙を流した。

アウトサイド攻撃に力がある相手に対し、対策は練っていた。張り付くように体を寄せ、遠目からのシュートを防ぐ作戦だったが、結局、3点シュートだけで45点。小野寺真コーチは「相手の足元を寄せ切れていなかった。選手たちはよく走っていたが」と無念の表情を浮かべた。

中盤まではじりじりとした差をひけたが、最終盤はオールコートディフェンスを使って意地を見せた。速攻から得点を重ね、第4クォーター（Q）の得点は相手を上回った。エース米谷里は「スピードは通用した。連携やパスのつき方も良かった」と胸を張った。

## 焦点

柴田が夏の東北大会を制したことによる増枠の恩恵で全国出場を果たした格好。本来、全国大会には優勝チームしか出場できないだけに、来夏、来秋は県Vが目標となる。副島主将は「チーム内でもハル意識を持って高め合い、全国に通用するシュート力を養ってこれればと後輩にエールを送った。」

（上村公徳）

## 「決定力に差」5年ぶり勝利ならず



【女子1回戦・八学光星―聖カタリナ学園（愛媛）】第4クォーター、八学光星は藤元妃季（中央）がシュートを決め、56-80と苦み



【女子1回戦・八学光星―聖カタリナ学園（愛媛）】第3クォーター、八学光星は米谷里（中央）がシュートを決め、35-58とする。東京体育館